



海人 うみひと

現場最前線

港湾工事の スケールの大きさを実感

徳倉建設株式会社 現場代理人

山田 貴也 さん

やまだ・たかや

入社3年目に名古屋港管理組合が発注する「飛島ふ頭護岸築造工事(その3)」で最初の港湾工事に従事した。現場代理人として初めて経験することにもなる施工には「不安もあった」。山田貴也さんは着任時の思いをそう吐露する。続く「同(その4)」も現場代理人として携わった。所長・監理技術者の上司と共に、工期が延びた(その3)の施工を進めながら、(その4)の着工に向けた準備に奔走した。

工事では、今は使われていない放流口として使用していたふ頭に面した三角形の水面を埋め立てるための護岸を築造した。これにより隣接するコンテナヤードを拡張するのが目的だ。(その4)は護岸築造に向けて隣接するふ頭のヤードで製作した1基90tのL型ブロックを500tつりの起重機船で運び、10基設置するものだった。

現場代理人としての役割は、発注者への工程の説明や各種許認可の申請、協力会社とのやりとりなど。主にコスト管理を担う所長と連携して工事が円滑に進められるようにした。

L型ブロック10基の設置は、両側が固定されたエリアで行われた。許容範囲がほとんどない厳しい条件の中、寸法通りにブロックを据え付けなければならない。やり直しが困難な施工の誤差が生じないようにブロック製作を工夫し、1基設置するごとに現地を確認するなどしながら、何とか切り抜

けることができた。10基目が予定通りに設置できた時には「ほっとした」という。

「ノリ漁の時期に施工ができないなど海上での工事特有の工程調整の難しさなどもあるが、スケールが大きいだけにやりがいもある」と、港湾工事の魅力を感じた山田さん。昨年1月からは愛知県安城市から碧南市をつなぐ工業用水用の配水管をシールド施工で構築する工事に現場代理人として従事する。

海上とは趣の異なる陸上工事だが、今は「いろいろなことにチャレンジする時期」。担当する各種工事で経験を積みながら「安全な施工で、収益を上げることができる技術者として成長していきたい」と意気込みを語る。

入社5年目で27歳となり、昨年12月には念願の入籍も果たした。家族を持った責任感で「現場での仕事にも一段と精を出していかなければ」と気を引き締めている。



L型ブロックを据え付けた現地の状況

- 【工事名】 飛島ふ頭護岸築造工事(その4)
- 【発注者】 名古屋港管理組合
- 【工事場所】 愛知県海部郡飛島村東浜3丁目地先、弥富市3丁目地先
- 【工事内容】 撤去工、基礎工、本體工(L型ブロック製作据付、間詰めコンクリート)、裏込工、架設工
- 【工事期間】 2023年3月11日～2024年1月19日